

国土技術開発賞

研究第二部 主任研究員 鶴飼貴昭

1 国土技術開発賞の創設

「国土技術開発賞」は、1998年のJICE設立25周年を機に、旧建設省の後援をいただき、「建設技術開発賞」と称して、JICEが創設した自主事業で、民間における建設分野における技術開発者に対する研究意欲の啓発と建設技術水準の向上を図ることを目的として、建設分野における優れた新技術及びその開発に貢献した技術者を対象に表彰するものである。特に、建設分野においては、開発された技術そのものを対象として表彰する制度としては、我が国唯一の事業とされている。

第1回並びに第2回は、旧建設省所管に係わる技術全般を対象として実施してきたが、中央省庁再編を受けて、第3回では、旧運輸省所管の財団法人沿岸開発技術研究センター（以下、「CDIT」という。）との共催で実施することとし、旧運輸省所管に係わる港湾・空港分野の技術を加えた、より広範に亘る新技術を対象に実施することとした。

2 第3回国土技術開発賞の概要

●応募にあたっての主な条件

「応募資格」は、応募技術の開発を主体となって実施した個人又は民間法人等とし、「応募対象技術」は、住宅・社会資本に係わる、計画・設計手法、施工方法、維持管理手法、材料、機械などの広範に亘る新技術とし、概ね過去5年以内に開発され、かつ過去3年以内に実用に供された技術とした。

また「応募期間」は、平成13年3月6日～同年4月13日とした。

●選考方法

選考は、第3回国土技術開発賞選考委員会を設置して実施した。

選考委員会のメンバーは以下の通りである。

委員長 中村英夫（東京大学名誉教授）

委員 中川博次（京都大学名誉教授）

// 国土交通技監

// 国土交通省 技術総括審議官

// 同 技術審議官

// 同 国土技術政策総合研究所長

// 同 国土地理院長

// 独立行政法人土木研究所理事長

// 独立行政法人建築研究所理事長

// 独立行政法人港湾空港技術研究所理事長

// JICE理事長

// CDIT理事長

選考にあたっては、応募者より提出された応募書類に記載されている内容について、

○建設コストを縮減する

○ライフサイクルコストの低減やその評価手法を確立する

○品質の確保及び性能の向上に寄与する

○維持管理の効率性、水準等の向上に寄与する

○優れた景観の創造や自然環境の保全、回復などに配慮する

○建設廃棄物・環境汚染物質の発生の抑制、有効利用、リサイクルの促進を図る

○資源やエネルギーの節約を促進する

○国民の生命や財産を守るために必要となる防災やリダンダンシー確保に寄与する 等

の国土交通行政が抱えている課題に対して18項目の技術開発のミッションを設定し、これらのミッションを参考に、技術開発の効果、汎用性、独創性の視点から実施した。

●選考結果

第3回国土技術開発賞では、民間企業等から59件（第1回：75件、第2回：43件）の応募があり、道路、河川、上下水道、港湾・空港から建築に至るまで、建設分野全般にわたる大変幅広いものであり、その内容についても、工法、機械、材料に係わるものから、調査・計測などのソフトの開発まで多岐に亘っていた。また、いずれの技術も技術開発者の意欲と工夫に満ちたものであった。

これらの応募技術の中から、第3回国土技術開発賞選考委員会の厳正かつ公正なる選考により、

最優秀賞 1件（国土交通大臣表彰）

優秀賞 3件（国土交通大臣表彰）

入賞 15件（選考委員会委員長表彰）

表-1 第3回国土技術開発賞 受賞技術一覧

	受賞技術名称	応募者名
最優秀賞	ハニカムセグメントを用いた同時施工法	(株)奥村組、石川島播磨重工業(株)、石川島建材工業(株)
優秀賞	ICPブリース工法	(株)湘南合成樹脂製作所
優秀賞	浸透固化処理工法	五洋建設(株)、九州大学 善 功企
優秀賞	ウォークスルー型耐火スクリーン	(株)大林組
入賞	省エネビル総合評価システム「エコナビ TM 」	(株)大林組
入賞	SDP工法	東洋建設(株)、国土総合建設(株)、井森工業(株)、家島建設(株)
入賞	環境に優しい底泥処理システム	(株)大林組
入賞	ストランド場所打杭工法	東日本旅客鉄道(株)、大成建設(株)
入賞	FSコンクリート	(株)沿岸環境開発資源利用センター
入賞	既設トンネル覆工背面空洞の新充填工法 「アクアグラウト工法」	清水建設(株)、(財)鉄道総合技術研究所、ラサ工業(株)、(株)日本触媒
入賞	BIG CANOPY	(株)大林組
入賞	ビックリート	(株)間組、日本ヒューム(株)
入賞	GPSおよび加速度センサーを用いた盛土 締め管理システム	(株)大林組
入賞	TBMによる小断面トンネルの 合理化施工システム	佐藤工業(株)
入賞	SR-CF工法	清水建設(株)、鹿島建設(株)、(株)コンステック、ショーボンド建設(株)、 新日本製鐵(株)、大成建設(株)、(株)東邦アーステック、東レ(株)、 日鉄コンポジット(株)、三菱化学産資(株)
入賞	エコカラムユニット工法	(株)奥村組
入賞	大型浮体橋梁の設計・施工技術	日立造船(株)、三井造船(株)、(株)横河ブリッジ、(株)春本鐵工、 三菱重工業(株)、川崎重工業(株)、松尾橋梁(株)、片山ストラテック(株)
入賞	1層で2層分の機能を有する機能傾斜系瀝 青舗装材料「スーパーエスマック」	日本舗道(株)
入賞	AWS工法	住友建設(株)

【上記受賞技術の概要は、JICEホームページ(<http://www.jice.or.jp/>)で閲覧できます】

の合計19件を表彰対象として決定した(表-1)。

今回の受賞技術は、いずれの技術も、建設分野に求められている社会的要請に応えようとする技術であり、コストの縮減や品質の確保、環境との調和、リサイクルの推進、既存ストックの適切な維持などの様々な課題に応え得る優れたものであった。

●第3回国土技術開発賞表彰式

第3回国土技術開発賞の表彰式は、平成13年7月11日に、泉信也国土交通副大臣、技監をはじめとする国土交通省の関係者の方々、並びに関係団体から多数のご来賓の方々のご臨席を賜り、盛大かつ終始和やかな雰囲気で行うことができた。



写真-1 最優秀賞の表彰（中央：泉副大臣）



写真-2 入賞技術の表彰（左：中村委員長）

また各賞の表彰においては、最優秀賞並びに優秀賞については泉副大臣から（写真-1）、入賞については中村英夫選考委員会委員長から（写真-2）、それぞれ受賞技術を開発した法人代表者並びに技術開発に携わった代表者に対して、直接、表彰状等を授与いただいた。

3 国土技術開発賞の普及活動

国土技術開発賞における受賞技術の普及活動は、以下に示す通りである。

①記者発表

一般紙：国土交通記者会

専門紙：国土交通省建設専門紙記者会
同 交通運輸記者会

②受賞技術概要の配布

受賞技術の概要を取りまとめた冊子を作成し、国土交通省、関係公団、都道府県、政令指定都市、関係業団体、関係公益法人等へ配布

③インターネットによる情報提供

受賞技術概要の内容をJICE並びにCDITのホームページで紹介

JICE-HP：http://www.jice.or.jp/

CDIT-HP：http://www.cdit.or.jp/

④JICE及び関係業団体の機関誌等への掲載